

【補足資料】和光新校基本計画検討委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和4年12月7日（水） 午後3時開会
午後4時40分終了
- 2 会 場 県立和光国際高等学校大会議室
- 3 出席委員 栗藤委員長、松本（浩）副委員長、遠藤副委員長、岩並委員、森山委員、後閑委員、瀧嶋委員、山崎委員、山本委員、松本（悠）委員、谷津委員、大場委員、野澤委員、龍野委員、石戸谷委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 坂本、高辻
- 5 協 議 「和光新校基本計画検討（案）」について
栗藤委員長 それでは、協議に入ってまいります。まず、事務局の方から、この委員会の性格等について説明をお願いしたいと思います。
事務局 （新校基本計画検討委員会について、今後のスケジュールについて説明）
栗藤委員長 事務局から説明がありましたが、何か御質問等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、資料1、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策に関して、事務局から説明をお願いします。
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）
栗藤委員長 実施方策について、説明がございました。昨年10月に策定され、県民の皆様既に公表している内容となっております。何か質問等がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、次に進めたいと思います。ただ今説明がありました実施方策をもとに、両校において、新校基本計画検討（案）を作成していただいております。副委員長である両校教頭から説明をお願いしたいと思います。
松本（浩）副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について和光国際高校案を説明）
遠藤副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について和光高校案を説明）
栗藤委員長 ありがとうございます。新校を考えていく上で大きな柱となる部分ですので、ここがしっかり立たないと、新校の細かい方向性が出せないと思います。それぞれの教頭先生から御説明をいただいた、目指す学校、育てたい生徒像、それから、教育活動の基本姿勢というところまで、御質問、御意見などがございましたらお願いします。もしなければ、資料の説明を事務局からお願いしたいのですが、事務局補足というのが、斜体で記載されています。また、論点というところも、そ

それぞれの学校が提出したものではない部分かと思いますが、こういった観点でそういった記載となったのか、説明をお願いします。

事務局 （和光新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について事務局補足、論点を説明）

栗藤委員長 ただ今説明がありました。目指す学校像ではないんですね。目指す学校なんですね。目指す学校像と言いますと、学校自己評価システムシートの中で、その学校の中長期的な目標を設定してみんなでそこに向かっていきましょうということになるわけですが、そこに掛かってくるような、もう少しもやっとしたものでも良いのでそうした方向性を打ち出していくということになります。事務局の方が、ここに出てきている文言等を拾いながら、第2回するときには具体的なフレーズとして出していきたいと考えておりますので、そこに、これは是非入れておかなければならないといったものがあれば、出していただければという趣旨です。ある意味一番難しいところかと思いますが、方向性を出すことで、その後の様々な、教科指導もそうですし、具体的に生徒にどんな教育を施していくのか、ここを木に例えると幹として、枝葉が広がっていく、そういう大事なところだと思っています。

松本（浩）副委員長 質問なのですが、新校の基本方針を検討していく中で、国際に関する学科の中心的役割を担う学校ということなんですけれども、中心的役割について、何か具体的なプランやイメージがあれば教えていただければと思います。人によって認識が異なるかと思われましたので。

栗藤委員長 事務局からお願いします。

事務局 今回、国際に関する学科というのが、和光新校以外に、岩槻高校と岩槻北陵高校を統合する岩槻新校も、国際に関する学科を設置します。また、北部地区にある秩父高校と皆野高校を統合する秩父・皆野新校、こちらも国際に関する学科を設置します。今回、三つの新しい国際に関する学科の新校が作られる予定でございます。その中のこの和光新校が中心になっていただきたいというところがございまして、国際の中の中心校ということで書かせていただいております。また、こちらのイメージではございますが、例えば和光新校の方で、外国と連携した取組をされる中で、和光新校でやられている授業を岩槻新校や秩父・皆野新校の方に遠隔授業で授業ができないか、そんなところもイメージしていますので、この和光新校でやられているこの国際の教育と言いますか、そちらを他の2校にも波及させるような、そんな中心的役割を担っていただきたいと。また教材作成などもあるかと思いますが、そういったところも是非、今、和光国際高校には外国語学科がございまして、そういったところの知見を新校に生かしていただきながら、国際科の中心となっただけのような新校になれば良いということで記載させていただいております。

栗藤委員長 最初の質問が出ましたので、是非、これをきっかけにいろいろと御発言いただければと思います。

山崎委員 和光国際高校は、外国語教育と国際交流をこれまでやってきた歴史があるわけですが、国際に関する学科と言いかをされているということは、外国語科が設置されたときとは目指しているものが、目指している内容が違ってくるのでしょ

か。全国的に見ても国際科という名称が大分増えてきて、外国語科という学科よりも国際科というのが一般的になってきている傾向があると思いますが、国際に関する学科というものは、外国語科が設置されたときの県の考え方とはまた違うのでしょうか。

事務局 国際科のイメージなんですが、これまで外国語科ですと、外国語科の先生が中心となっていていろいろ取り組まれてこられたのかと思いますが、国際科に変わったところで、外国語科の先生はもちろん中心となって御活躍いただきますが、それ以外の教科の先生方も、是非この国際科というところを意識していただき、国際的なと言いますか、授業の方を展開をしていただければ。常に国際感覚などを身に付けた授業と言いますか、そういったところも意識していただければというところがございます。例えば、地理歴史科ですとかいろいろなところで、国際的なところで授業を深められるのかとか、また、保健体育の授業でも、日本のスポーツだけでなく、国際的な外国のスポーツですとかそういったものを取り入れたり、外国語科に限らず、全ての教科目で国際的な視野を持って進めていただきたいというところが、違いかと捉えております。答えになっていますでしょうか。

山崎委員 ありがとうございます。

栗藤委員長 今のところは、教育局の中でもいろいろ議論しているところですので、とても大事なところだと思っておりますが、共通理解が図られていければ幸いです。その他、ございますでしょうか。

野澤委員 両校の方から、和光国際高校はグローバルリーダー、和光高校はグローバル人材と出ていますが、そこに若干の意味合いの違いがあると感じたところなので、もし可能であれば、それぞれの高校の、グローバルリーダーとグローバル人材というところが、具体的にどんなイメージなのかというところが分かると、中心的役割というところの理解にもつながっていくのかなと思います。

栗藤委員長 代表してそれぞれの教頭先生からお願いします。

松本（浩）副委員長 グローバル人材ではなくリーダーとなっているということはやはり、世界で活躍するリーダーを育成していくということが和光国際高校の使命なのかと考えております。

遠藤副委員長 グローバル人材は必ずしもリーダーだけを指すのではなく、リーダーも含めて様々な人材を育成することを目指すという意味で、このように記載しております。

栗藤委員長 言葉は似ていますが、表現していることは少し違うということでしょうか。フォロワーという言葉がありますが、リーダーもフォロワーもどちらもなくてはならないものかと思っております。リーダーがこうやると言っても、フォロワーが誰もいなければムーブメントは起こらないということで、そういった人材は幅広く必要なかもしれないということかと思っております。先ほど山崎先生から御質問いただいて、事務局が回答していますけれども、外国語科から国際科へというお話の中で、和光国際高校の現在の様々な取組というのを見させていただくと、もうこれは十分に国際科的な活動をされているのではないかというのも、私たちの議論の中にありまし

た。ですので、何か新しいものを、全くこれまでとは違う概念を持ち込むというよりは、現在の和光国際高校の様々な取組が、名前を国際に関する学科、まだ名称が決まっていますが、に少し変えていく、ただ、実際にされていることというのは、これまで積み重ねられてきたものであるのではないかと考えています。その中で、グローバルリーダーに焦点を当てるのか、幅広く考えていくのか、その辺りは議論が必要かと思えます。面白い観点かもしれないですね。今、目指す学校についての議論ですが、もう少し幅を広げて、育てたい生徒像、基本姿勢についても、御意見をいただければと思います。先ほど、松本教頭先生から御説明のあった、Read , See & Think. というのは、この学校にずっとある大事なフレーズかと思えますが、これは和光国際高校にとってどのような位置付けでしょうか。教育目標のようなものでしょうか。それともそれに付随するキャッチフレーズみたいなものでしょうか。

松本（浩）副委員長 スクールモットーです。

栗藤委員長 ありがとうございます。これをとても大事にしているということですね。

それでは、先に進んでまいりたいと思います。それぞれの項目ごとに、それぞれの教頭先生から説明をお願いしたいと思います。まず、教科指導からお願いします。

松本（浩）副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち教科指導について和光国際高校案を説明）

遠藤副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち教科指導について和光高校案を説明）

事務局 （和光新校基本計画検討（案）のうち教科指導について事務局補足、論点を説明）

栗藤委員長 御意見等、いかがでしょうか。国際科と普通科の併置校ということで、割と特徴的な、国際に関する学科に関する議論が中心になってくるかと思えますが、例えば、普通科をどのようにしていくのか等、御意見として出していただいても良いかと思えます。教科指導というところが、教育活動の中で最も大きな部分を占めることになると思いますので、特に現場の先生方から御意見をいただけると良いと思います。

松本（浩）副委員長 今回、この教科指導を考える上で難しかったのが、例えば海外との連携というところなんです。事務局の方でも論点として示しておりますが、本校はいろいろな海外との連携をやっていますが、教科に縛られてしまうとなかなかやりづらいというところがありまして、例えば、教科指導ではなく他の項目であればうまく書けたのかなと思っています。

栗藤委員長 和光国際高校の先生方からは、大きく頷くような様子が見受けられましたが、和光国際高校に限りませんが、国際的な取組をしていくとなると、授業というよりは、もう少し別の活動と言いますか、長期休業中に海外の姉妹校と相互交流するとかそういった取組は既にやられているかと思えますが、事務局としてはそういったこれまでの殻を打ち破って何か新しいものが作れないかという期待も実はあるということかと思えます。もちろん、できることとできないことは当然あると思いますので、まずはアイデアとして広くいただきながら、峻別していければ良い

と思います。私たちとしては、都立国際高校や横浜国際高校など近隣の学校なども研究してはおりますが、そういったところの国際科の取組も参考にしていきたいと思っております。事務局からいかがでしょうか。

事務局 こちらに記載したのは、遠隔授業の中で、もし、現在の和光国際高校の方で海外と連携した授業を、他の新しい岩槻新校や秩父・皆野新校の方にうまく遠隔で伝えていければというイメージで、教科指導の方に入れさせていただきましたが、(6)にその他というところもございますので、なかなか教科の中で難しいということであれば、その他には地域連携と書かせていただいたのですが、ここに、海外との連携のことを書くことも可能かと考えています。教科指導に入れたイメージとしては、遠隔授業の中で海外とつながりながら他の新校にも伝えていきたいという思いがあり、ここに書かせていただきました。いろいろと御意見をいただければ、移動することも可能ではございます。

栗藤委員長 本当に、いろいろなアイデアが良い学校につなげていくことになると思います。いろいろな思いを出していただければと思います。

野澤委員 教科横断的な学びと論点に書かれていますが、これについては、どんなイメージを持っていらっしゃるのかということをお伺いできればと思います。例えば、総合的な探究の時間の中で教科横断的にやっていくということなのか、あるいは、例えば学校設定教科を作って、そこに複数の教科の先生方がやれるような科目の中で、教科横断的な学びのようなものを考えていらっしゃるのか、その部分をお伺いできればと思います。

事務局 まず、今回和光国際高校案で記載いただいた各教科それぞれの現在取り組まれている内容ということで、これを一通り見させていただいたときに、これらをどういった形で、国際に関する学科ということで、外国語科を中心としつつ、他の教科も交流して力を合わせてやっていきたいなということで、ここに掲げていただいたことをどうつなげていければ良いかという視点で書かせていただきました。野澤委員からあったように、学校設定科目ですとか、そういったところも、もちろん検討の一つにあると思いますが、まずはもう少し大きな枠で、それぞれ現在、各教科で取り組まれている取組が、国際に関する学科になったときに、教科横断的にどういった形で、交流と言いますか、より良いものに発展させていけるか、といった視点から論点として記載させていただいております。

栗藤委員長 資料上は、むしろ和光高校案の中に、学校設定科目であったり、外国語だけでない国際理解科目の設定というような、アイデアとしては非常に横断的なものが感じられるようになっております。他に何かございますか。

後閑委員 事務局に、論点に関する質問なのですが、遠隔授業の検討ということですが、実際にやるのであれば結構大きなプロジェクトになるかと思いますが、こういった話は、他の国際に関する学科を設置する学校にも今の段階で通っているのかどうかということが1点。また、学習評価の在り方というのが論点に書いてありますが、教育活動の基本方針として評価の在り方まで含める必要があるのだろうか、余り含められるイメージが湧かないのですが、どういったイメージなのか伺い

たいと思います。

事務局 1点目の質問についてです。遠隔授業の検討は、こちらは第1回の最初の委員会ですが、この後の岩槻新校や秩父・皆野新校の方でもこちらは論点の方に入れさせていただきたいと思っております。こういった意見が出てくるかというのはまだ確定されていませんが、こちらも提案といたら変ですが、論点の方に、岩槻新校と秩父・皆野新校の方にも書かせていただきながら、検討委員会の方で御意見をいただきたいとは思っています。まだ確定されたものではございません。意見の中で、絶対に無理ですとか、なんとかやれるのではないかとか、そんな意見もいただきたいと思っております。こちらとしては、できれば、目玉ではないですが、入れていきたいなということで書かせていただいておりますので、御意見をいただければと思います。2点目についてです。学習評価の在り方についてですけれども、新学習指導要領になったところで、文科省の方からも指導と評価の一体化というところで、単に指導だけで終わるのではなく、そこにしっかり評価を加えて、更にそこからまた次の指導に向かっていくというPDCAサイクルといわれたものが非常に注目されているところでもあります。学習評価というと、どうしてもルーブリックを入れるとか具体的な話になりがちですが、先ほどと同様に、まずは少し大きな枠組みで、例えば教科横断的な学びをやりました、ではそれをどう評価していくのか。総合的な探究の時間でSDGsについて取り組む、それをこういった形で評価していくのか、という、具体的にこういった評価を付けるということではなく、そこも含めて一つの教科指導である、ということで御検討いただきたいという思いから記載させていただいております。

栗藤委員長 とても良い質問をしていただいたと思っております。最初に言えば良かったのかもしれませんが、6つある新校の第1回新校基本計画検討委員会は、今日が初日として、他の学校はまだ開かれていないので、他の学校の様子が全然分からないという状況ですので、今日を皮切りに、各学校の検討委員会が進んでいくということになります。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは先に進ませていただきます。では(3)の生徒指導というところで、それぞれの教頭先生から説明をお願いします。

松本(浩)副委員長 (和光新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について和光国際高校案を説明)

遠藤副委員長 (和光新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について和光高校案を説明)

事務局 (和光新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について事務局補足、論点を説明)

栗藤委員長 御意見をいただければと思います。先ほどから、評価をどうするかという話が出てきたり、新校のエッジの効いた部分だけを取り上げて議論できれば良いのですが、最終的にはフルパッケージとしての新しい学校の在り方を記載するようになってきますので、幅広に触れていく必要があると思っております。ですので、教育相談と唐突に出てきますが、そういう意味で幅広に考えて、学校を一つこしらえ

ていくんだということで、いろいろな思いを入れていただくという観点から、事務局の論点として記載をしているということです。

山崎委員 恐らくそれぞれの案は、一般的な方針だと思うのですが、国際高校という環境について言うならば、論点にありますように、いろんな様々なバックグラウンドの人に会う、接する機会が多い環境になりますから、そういう多様性に対する態度と言いますか、論点のところに書かれているような方向を是非入れると良いのかなと思いました。

栗藤委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。関係者の説明会をこの夏に開かせていただいたときに、関係者の方々から、ダイバーシティであったりとかいろいろと最近よく言われているようなことも、是非新しい学校に取り入れていただきたいという話もありました。私たちも意識していかなければならないところかと思っております。よろしいでしょうか。では先に進みたいと思います。今度は（４）進路指導についてお願いします。

松本（浩）副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち進路指導について和光国際高校案を説明）

遠藤副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち進路指導について和光高校案を説明）

事務局 （和光新校基本計画検討（案）のうち進路指導について事務局補足、論点を説明）

栗藤委員長 進路指導について説明がありましたが、御意見、御質問等がありましたらお願いします。

後閑委員 表現の訂正をお願いします。和光国際高校案の具現化の２つ目、外部機関が提供するツールを活用し、正しい進路選択とありますが、正しいを消していただきまして、主体的なといった表現にしたいと思います。余り好ましくない表現かと思しますので。それから、一番最後の、職員会議や業者と書いてありますが、外部講師に訂正させていただきたいと思います。

栗藤委員長 表現の訂正ということで二箇所ありました。これらも現在和光国際高校で取り組まれている内容が中心かと思えます。それ以外に内容的なところで、こういったものを更に加えた方が等の御意見がございましたらお願いします。

松本（浩）副委員長 和光高校に質問なのですが、具現化の一番上のところに、授業時間数等を工夫し、学習量の拡大を図るとありますが、何か授業時間数の工夫について、具体的に考えていることはありますか。というのも本校は、55分授業をやっています、33単位確保しています。更にそれを増やすとなると、土曜授業とかということになってくるのかなと思うので、もし何か案があれば教えていただければと思います。

遠藤副委員長 そもそもところで御質問に答えると、和光高校案は、現在の和光高校が今行っていることを基に考えています。目の前の生徒をどうやって伸ばしていくかという観点で、やるべきことを取捨選択し、効果的な方法を案としてお示ししており、ただ単に物理的に授業単位数を増やすという案ではないことを御理解いた

だきたいと思います。

栗藤委員長 ここはカリキュラムを組み立てていくという作業をする場ではありませんので、広い概念、観念的な話をするようなレベルになっていると思いますが、今御説明のあった内容で御理解いただければと思います。よろしいでしょうか。では（５）の生徒募集に移りたいと思います。

松本（浩）副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について和光国際高校案を説明）

遠藤副委員長 （和光新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について和光高校案を説明）

事務局 （和光新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について論点を説明）

栗藤委員長 生徒募集というのは、非常に大変大切なところではありますが、大事なのは、学校がどういう学校でどんな魅力を持っていてということだと思いますので、最後の最後で、中学生に、地域に、魅力をどう発信していくかということになってくるのかなと思います。特にこの和光市エリアは、東京都の私立高校との競合にさらされるエリアですので、そこは工夫をしていきたいと思います。中身を決めていく中で、魅力をうまくと打ち出していければと思います。自分の話をして申し訳ございませんが、進学フェアなんかを見ていると、本当に私立高校の広報宣伝は素晴らしいですね。お金をかけているからだとは思いますが、戦略と戦術というところをしっかりと打ち立てています。なかなか戦術的はいろいろなアイデアがあるのですが、戦略というところを意識して取り組んでいる学校は少ないと思います。是非今回お願いしたいことは、戦術というよりは戦略をどう練っていくのか、そんなところも盛り込んでいただければと思います。生徒募集のところでは御意見がありましたらお願いします。

山崎委員 学校の特色を明確にして、分かりやすく説明するという点に尽きると思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。まさにそこかと思います。良い形で魅力を外にしっかりと訴えていくことが大事だと思います。前に戻っても良いということにして、最後のその他ということについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 （和光新校基本計画検討（案）のうちその他について論点を説明）

栗藤委員長 地域連携というのはここ数年の教育のキーワードみたいなものにもなっていますし、県内の義務教育諸学校もコミュニティスクールにどんどんなっています。いろいろな意味で地域とつながっていくのが一つの潮流だとは思いますが、これまでの取組なども参考に、是非取り組んでいただければと考えているところがございます。御意見がありましたらお願いします。

後閑委員 地域連携のことで、生徒募集に関わることもかもしれませんが、和光市で唯一の公立高校になるので、もう少し和光市との繋がりを持ってたら良いのかなと思います。地域の交流拠点になるというのはなかなか難しいかもしれませんが、聞いた話では、市立川口高校では、中学生などが様々な発表会等で高校に来る機会があって、もちろん設備がすごいところを見てというのものもあるかと思いますが、良いな入

りたいなといったケースもあると聞いています。もし新校になって、何か新しくなったり、設備的に充実したりといったことがあれば、そういったものが期待できるのかなという気はしています。あと、地域との連携に関して言えば、市もそうですけれども、例えば地元の企業とか学術機関もありますし、また、地域で活躍されているNGOなどとコネクションを持てたら、いろいろな学習活動に役立てるのではないかなという思いがあります。私も総合的な探究の時間を担当しているときに、地元の外国人をサポートしているNGOと繋がりたいなと思ったりしたこともありますが、なかなか個人では難しいところがあるので、そもそもの学校方針として、地域等に焦点を置いて、何か生徒が活動できるような機会があると良いのかなと思いました。海外との連携とか、グローバルな視野も大事ですが、身近なところで活動できるような機会を用意してあげることも大切だと思います。個人的な意見ですが。

栗藤委員長 ありがとうございます。個人的な御意見ということでしたが、大変良い御意見をいただいたと思います。他にございますか。

山崎委員 基本方針のところ、国際に関する学科ということで語学力を身に付けるということがうたわれておりますが、英語以外の外国語教育については、どうふうにお考えでしょうか。

栗藤委員長 事務局、お願いします。

事務局 中身に関してはこの後、大枠が決まった後なので令和5年度、6年度以降になるかもしれませんが、基本はやはり英語をベースに、第2外国語として他の言語も、必要に応じて学習していても良いのかなと考えております。具体的にこの言語を学んでいくということまではまだ想定しておりませんので、当然、英語を中心としながら、他の言語も含めてというところで、いろいろな御意見をいただければ変えられると言いますか調整はできます。まだ今回が1回目でございますので、こういった言語も取り入れていった方が良いといった御意見があれば、そういったものをいただければ助かります。

山崎委員 関連して伺いますが、英語以外にこういった言語が必要だとかそういう意見が出てきたときに、それに伴って教える先生とか人的な配置とか、そういったことまで含めて可能になるのでしょうか。

事務局 本日は欠席ですが、県立学校人事課の職員もおりますので、またこういった御意見が出れば、可能か不可能かを含めて、いろいろ煮詰めていければと思います。この場ではなかなか、必ず大丈夫ですとか、アラビア語がとか、はっきりは答えられませんが、御意見をいただければ、局内の他の課も含めて調整はさせていただきます。もし、必要ならば早めに言っていただけると、検討の材料にさせていただきます。

栗藤委員長 今、非常に大切な視点を御指摘いただきました。私たちの最大の課題は、教える先生をどう確保できるか、そこは大きいと考えています。少し話題がズれるかもしれませんが、先ほどの、遠隔授業というの、考え方の一つではあります。例えば県内に一人しか、例えばトルコ語を教えらえる先生がその人しかいないとな

ったときに、遠隔を使うと、3校の学校に、少ない選択肢かもしれませんが、学習者の少ない授業を提供できることになるかもしれません。そういった可能性もあるのではないかということは、検討の中では話題になったところです。学習者の少ない外国語を必ずやろうということを目指しているわけではありませんが、仮にそうなった場合、人探しということもそうなのですが、ICTの技術を活用するというのも、解決策につながっていったら良いという思いもあって、この3校がネットワークでつながると良いなという話は出てきています。全体を振り返って、ここをもう少し聞いてみたいとか言っておきたいとかということがあれば、お願いします。

松本（悠）委員 和光高校の松本です。ずっと議論を聞いていて、そもそも論と言いますか思ったことなのですが、全く新しい学校を作ることではなくて、実務的なことを考えたら、和光国際高校をベースにした学校になると思います。ゼロから何かを作るというよりは、ベースは和光国際高校にあると思っていて、その上で、国際に関する学科と普通科で、学ぶ内容がどう違うのかということと、現在の和光国際高校に外国語科があると思いますが、それとどう変わるのかということのはっきりしない限り、なかなか具体的なイメージというのは難しいのかなと思っていて、基本理念とか目指す学校とか育てたい生徒像というところを私もいろいろ考えたのですが、ずっとモヤモヤしていたのは、そこがはっきりしてないからかなというのは少し感じました。ですので、二つの学科があるということで、どう違うのか、現在の外国語科と新しく設置される国際に関する学科で何がどう変わるのか、どう変えていくのか、そこのところのビジョンが全員に共有できると良いと思います。あと、和光新校になりますので、今、和光高校に通っている、和光三中とか二中とか大和中とかから、うちに行きたいと思っていた子たちも含め、やはり誰もが行ける学校になるのが一番良いと思いますが、最終的にはこの案に示されるような学校になっていくと思いますので、その中で今の和光高校の何か少しでも反映されると、我々としては嬉しく思います。それが今後の2回、3回の会議の中で議論できると良いかなと思っています。

栗藤委員長 ありがとうございます。前半の部分について、事務局の方からどうでしょうか。

事務局 まず普通科と国際科の違いについて、これまでの和光国際高校の外国語科をイメージされているということで、先生がおっしゃるとおりなところもございます。普通科と国際科の違いなんですけれども、今の外国語科はなぜ外国語科なのかと言うと、外国語に関する科目をたぶん25単位以上履修されているかと思いますが、そういったところで差が出てくると思います。ですので、国際に関する学科の方も、外国語に関する科目を25単位以上の履修が条件になってくるのかと考えています。では、外国語科と国際科で何が違うかと言うと、少し前にもお答えしたところではございますが、外国語科の先生に限らず、普通科の先生も国際に関する取組を授業の中で取り入れていただくなり、また、学校設定科目などを作るなどして、これも絶対ではありませんが、いろいろな教科が混ざり合いながら国際人を育てるではないですが、国際社会で必要とされるグローバルリーダー等を育てていければと思っ

ております。お答えになっていますでしょうか。それが1点目でございます。2点目が、和光高校の良いところですかね、そこを取り入れるということで、こちらも是非和光高校の良さを取り入れていきたいなと思っております。基本は和光国際高校が恐らくベースになりながらバージョンアップ、更に和光高校の良いところも含めながら、新校ができればなというのが全体のイメージですので、これからの委員会の中では、和光高校の良いところはたくさんあるかと思っておりますので、そういったところもこの基本計画に入れ込みながら、今の和光国際高校が更にバージョンアップできれば良いと考えております。

栗藤委員長 大事なところだと思います。私たちが国際に関する学科とさまざまな場面で打ち出してきているわけですが、一体その具体は何なんだということを詰めていく必要があるのですが、ただ一つ、私も先ほど言わせていただきましたが、他県、東京や神奈川のいわゆる国際科の学びを見ますと、外国語科の枠を超えて、他の教科にも学びが広がっていくようなイメージを持っています。例えば、家庭科の授業で食について学ぶといったときに、外国の食文化などを取り上げる、あるいはそこに、外国の食に詳しい方を呼んで、その方がしゃべる言語が例えばアラビア語だとすれば、アラビア語を交えてコミュニケーションするなど、いろいろと他の教科を巻き込んで行われていくのを一つのイメージとして持っています。これまでの外国語科というのは、例えば英語を扱う、第2外国語を選択するという、もちろんそれだけではないと思いますが、そういったものに割と集約されてきた部分があるのかなということで、ただ、冒頭に申し上げましたが、現在の和光国際高校は既に外国語科の壁を破って国際科的な取組をされているんですよね。なので、今やっていることに名前を追いつかせようという部分もあるということは、先生方への説明会でも説明させていただいたことではあります。蛇足でしたが。

山本委員 和光高校の山本です。今、松本委員からあった意見についてですが、今日のお話を伺っていて、先ほど委員長もおっしゃったように、和光国際高校がベースというのは間違いなくて、結構この基本方針、事務局補足というところで、適切か分かりませんが、和光高校にすごく気を遣っていただいているんですけれども、これを全部入れようとするとブレてしまうと思います。育てたい生徒像もそうなんですけど、そもそも育ててほしいと期待されている生徒像が違うので、余りそういうところで、ブレンドという意識を推すよりも、和光国際高校が既にやっている取組に名前を追いつかせる、というところで、具体的ところで和光高校のやっていることを入れ込もうとすると、逆に何がしたい新校なのか見えなくなるのではないかと、このことを少し危惧しています。ですので、文言もすごく大事だと思うんですけれども、余りベクトルをブレさせ過ぎると、多分この後の議論が難しくなると思います。実際にこれを策定していくとなると難しくなるのではないかと、このところが心配なところではあります。はっきり方針として現実的なところがあると思うので、今後の会議を進めていくところで、そもそも論なんですけれども、実際こうだよねというところを確認していただいた方が良いのかなと思いました。

栗藤委員長 ありがとうございます。今後の話については事務局の方から説明もあり

ますが、それぞれの学校でいろいろと考えていることは、それぞれの教頭先生にですね、実は教頭先生方は、この 12 月から、当課の職員を兼ねて発令をされています。兼務教頭という形ですね。ですので、魅力ある高校づくり課の主任管理主事でもあります。校内のいろいろな御意見を集約して、私たちとのパイプ役になっていただき、今後は先生方からいただいたものを、局と共有しながらやっていきたいと思っておりますので、御理解いただければと思います。最後に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、協議を閉じたいと思います。